特別
へ13
4200
12

宮城県図書館

千世能

源今度の出陣ふ諸侯の五位の御家民とのつかわり民
人ごんぐふつきてくらくしたる文民ごろのたりしや大
力のかまもありしうばは海くろ又あるものとおぐ
し給ひて行ひくれ出陣とあるとときうり給ふ志ら
まばかりも命が書ハ伊勢のちくしの姫ありしが
ゆかよ屋作りうしうばはなことはなりもしへとりてだ
ぐりょんぐふうちぐりけりた祖母くあるを一人ま
うあるふ月合ゆくぐわあるくうくるちうばは父母か
しづきそぐてもくるとはるあの姫とぞやけるぐ
ひめ生れりはよるぐひとぐとこはこ二十二ときうあ
智重ゆくくよとぐれ給ひ襲姫のうらもくか



# 道方

58 2024

らばこのまゝ世をうくかうてまこばゝ酒くて神の
たゝやうゆんゆうなりをれば山姫よりをも
とうけざるんつかしおうるれはわれなこのほくをた
つゝ又ゆげさとをうり又いをを爲のれらめのとをかを
ゑひをとをとつくをとをいかを元一をびわざれを
しごふをびしてうもい佛のをんをのようけまい先
やゆのうをををてかんををう氏橋を咲ゆをびゝ花ひ
らくまこば天下のをぞをををうくをくちるをん
てを世のわりを海を親じ姫乃月のをうまこばやぞを
かをとをがめををうねむじやをのをうりぞをひをう
んをををうりゆーくんをゆーりをたびひめを七葉
のををうをうを爪をを爪がゆ角のうをよりゆうををうを

いでたまこといくたびかたづめうにむけのくふの位
人あつげのさ命位親といふものわるこ一ぞくの
まさをとりつものよたのうまきて出羽奥羽の大名やん
とりくこひあ勢とりうりおいはよ城とあらくか
まくあよ親とあ武蔵下野にうりてつづくさき
あくこりがゆくあ毎ひくいそこざ撃どそ
ひあらまけうぜ一くこのせあごらくこ秋ゆうる成
たしやくこて越方持のたくものとひ一えくこの
まんりむあらうまくこてくこいゆくきのんを命を夫
しやくこてせる金持とあひそこ出くけをでより
きくこ川のせくまでくこりくこふてくこくこの
くこあつごナくこりまと庄でくこせんたくまん風の



数し川の史ふがごくあくたがひよせくをぬくこと
いをたづるふくりくこあくこふ揚屋をあてを月日
くこをいくこありくこまのりくこやをとごあそたな
出羽奥ちたりのたさ山七命くこくこれくこ海く
らくこ海あのんりくこわくとあ津が海平にはをを
しくば左命くこれくとくこやくこくこのくふ光ひと
屋くこゆくこぶらるまくこいくこりくこりてひ
七命とあくこりりくこみくこの利とはくこやくこごくこの人くこの
くこをとなくこをくこやくこりくこひてくこりくこくこらくこもくこめくこ
らくこんくこざくこくこくこゆくこくこくこはくこざくこんくこくこのくこくこりくこくこいくこあくこ
けくこるくこくこやくこくこくこくこくこくこくこくこくこくこくこくこくこくこくこくこくこくこくこ
ぶくこふくこいくこのくこあくこりくこけくこるくこくこくこくこくこくこくこくこくこくこくこくこ

びくにんけんをしてあらそをもくかのとうだうにて
はあいげのさう門がわたらるるりしが見物するしがくをん
をたれ結ぶをとめどりしが柳しぎのをんなりくけるる
ふあるをしあるりをたれどけいをもう門をびくにんあるをう
あひ法のをう門つてをうへをうてをのびをうふをうたうのを
へをうりてはあをうきのをう門をうをうを使をもをびをを
うしまあをうがいをうけをたのをけをあうれをうをうだうを
出家出つの另をとかゆをでいを一勝のりうばをうをいをうをんが
ふをびんをうやをいりををうんやをうををうをうをうをんてをうをうをんをうを
いを結ぶの七命いをうをんふをうをさ結をうをてをうをびをくを家をを寿
をうり中をうを毎月廿一日八文が命日をうりをうをしを寿み
をうりをうを仏中をうをうをうをのをを結をうをを

叩く先ちりくまいてすべてしとかくるふ左門ゆうわさ
ゆみをあまりづりあくしく紙ゆして親ぢんすう
四てりくそてのくをそ我ろへけりたいふきこそ天
かりよい開の高江海坂の三度長野の舞舞殿の命わ稼
くの平蔵東海道をさげくへとそこで坐んて我りとゆ
をこのたゆすを強をぐりて宮屋ゆろ新歌ふそうだ
うりりくをたりけりけをを祝よそうだうへけたくの
をを開ふいまをいぐんひやうぎくしつおうそうゆ
乃稼りおふうきうげおくたゆくくく

ぶ申しふれてをあるこの長屋一番よりはじめとして
長屋諸家とも申しのけ諸侯の立てより大名衆
ゐてやうやうやくこの長屋ねの世代家と
し大数よりしてふ男ぐさやうふゆうふるのうれ清
の方部ぐるまちをを付まひ
ひろへとうけまい諸侯申ぐ
たぐくまゐろは申ーさまを
べさそといひもわへどもおれ
くうう諸さりえこうもやわ
と申ものにいぐうまるぐ
とあまもし長屋さうて
へうつうのたわまんを

いねとうかうてうこんらうといふさむ法師を大勢よ
ばかりつれてどやんくとつけどもとりもむすんな
ふこと叶はず命もすてうちさうざ
殺もくとうんぐにそこらふみうせてとぶらうを
ば法師ばかりあれば一人このうどまてうをあべてうら
ぶてんぐ賞の高ひくくなりて首をく
ちらどもあれよりもう勝つゆうさをは大勢の中ふりこめ
おはぐ法師どりけるを命はたすにこらでは
の知らはこれまうたまくとおわりひざそ一遍
と先ずわれ先くやうやうは法師のとりをたとは
もべくや作仏はじ人はいかに面白て愛の四代安とて勢方
諸のほとりあのと辛しそれぐらは付よみてぐもろまり

あれど作人よはかりうべしいくさ面あ面ふりくふりあを
てそなたらそくやうびさんうくひあんくしひ
しらはおくまおはぐふくくてはの高八所りるを年とも出ものを
ものくやけりはもを命とはもう法師はいらぬ
和くのくのいうんやうびさ光く義とつうとこあを紙
懐のもをを生補さうはよあ人ひろうせさ勝ひ
てのうされくこのくとあの綱をは法せうやうび
くさとうのあ也ばさ和去うとと皆一回ふひりば
あ法をやうて同ん作ておまでをあとすあと
ちわくうの長屋が屋これ和に諸義とうら法を
和くこあ蔵の人よ雑云はうあまうとて光弁用
わくをはうぐ光くうくやうの作人和猪日づめふくび

しを海をりゐるうちさて海ゝゆは法師七郎
つけどもをけるとおもひくつげきされ海ゝ
大きさよ地ごろさあひて内義和泉のくとを雲影の
ごとくゆゝあつ先帝御行幸ひとりぐゝありさうにて
海ゝなはせ七郎と御方ようてけるゝ和りめを
はたゝひ一郎一郎とおもひてもさ法師
ぐ命をたとけゝ海おがみたはんゆゝありさうれて
御方のくをはせんゆゝとりまつせて先
度はれ和泉ありゝ法師ぐをはたとけれれ
とゆゝばぐ海ゝねさうゝぐゝをさそ御ひ
くをを見みかゝを御ぐさとをれとくくとをく
をゝうくくとを伝をれぐんゝうゝ海のゝりそ内御

[illegible]

[illegible]

[illegible]

にたゞとあらうとつひとそれがかたをあつこ
ゆるゝ人はたゞたゞこの在てをつゞくるもの
やうに名ゆ名小菊機ゞ者やまのうげさいうとうにつけ
てあんとわもゞとゆきしもわんてんようとうあてゆあ
をとてあさうとうに宗あるうりて夢のまわたうと
つとうてやう廣はいまゞ勝せる也おつゞけう餓
よ義今して在とたるおとたりかゆくゆく苦けもハ
ほうとをあの姫をうんでんと母さおとて八七部屋
いいまゞ山世よおりうとうやとてはくうあ也作のさ
とあんゞ人し二月三月ものどもたゞひのわ様とう
くうとうゞあとあ世ものをとうとたゞ也部屋
ハ四くふうさ義よをとくこめれ海ようはくうりのちう



ちんをれいばうさい者をとうちあさていんと
きゞゞれて八ものさたゞいくいせんとゞりも也世のく相
を者ゝ初るかわんゞかわくあをもとゞまうつゞ物ゝ
あうさ母よむうひてゃゝわくやうわくあ方さいの作を
いゆゆいて海とゆうとゃと母ゆうをゆまあひてい
ゆあいくさ多世様ゞうひゆあ海ゞわくあせた作乃屋くあり
とうくさいて海のこひゞさ海ゞうきうゆまとうあ
くてあゆとをうゆまくあうくゞ多世様うけく
ゆまいうゞゞくゞ方ひゆゆまのゆゆゆゆゆくゞ
ようけてゞんをくゞ行ゞゞめゞゞれゆまれハ父のゆ
海をあうゆゆとやうんゞたうゆゆくゆ極世乃てうとう
ゆひとうくとゆ先うしゞうくうくゆゆ海とすゆ

ぞてふこそうきまとりいひぐつもいうふてゆとも爰
人の耳ハ驚めつきまもあこハ天ようく出わりしを
それぞこと人ちぐ川ハ法傳ゞ家のそば父かん
とを我ゞうとともてごさんまい治定ありどいまう
どこのこまくぐ爰のはうもうゆうりはりとハ
きめくこどもひとでまるまあしそれとうにく
ゆふわハ男子でさめくりぐ父の出代りてこもんぶ
をおぬぐだくひ女ありこもんも男子ふとこゆま
てきのんとこりぐ父御のいはらをたとべこそを
のぬりぐひまもごこなぐこまくぐひくこりくご
あさくハこちくみとなとゆくべうをこもまれて
のこまりぐりくそ別れよりぐこりて前とりくふ



あとくくこひ宮てきふくあぞや作いて海沿く
ひ男のまくみ藏ゆくハ母と世話と
せいくひまぐをりこりけゆ母ハゆ世話と
男と姪よりとあばゆ母よめいゆ爰そこりゆ父ぐめ
のくくさりと男ゆハ父ゆ付ゆ母よりくとひと
きくと稚とハこりぐりゆ母くまこりて母ゆ
くりくひぐくゆ父母ゆ男ゆくりくりゆとゆ
ハゆ稚ゆ男ゆこハきくりくりゆとゆしてぐけの作くと
くりゆりゆ母ハ斗やくこぐりゆくゆくられくぐゆハん
をゆりくりゆりくれぐむくもゆ父ゆくくこ
ま天母よてきくふゆものハ我ゆこりくひて母りひと
まゆやちゆの作こりくりくりゆくりゆこの作

よのことをおもふ人の世のうきを海ひろみ
てらるるごとくこころにかけて
て無こ八門にまいりくらのこまふそだちをふ母ぞ
八ふ父乃ゆきをばさるべくてこうりくおぼ
まもやのうんをばんのうれ
いうみをふ父御門山無よ海まこびい母と千世紙
をよ紙をとに法ゆくふおらぶをてごうれ人みはい
ゆりをれをこうきゆをとをごうり命のを命名
ふいをふまでみふをものづをうをうんをそ出人ををうり
せば命ゆををうをひあうまじをそをを出ゆをうをぶ
らの弟ををそをうをうをひをせ先をれをひうり
今高代ゆをうをまんゆををうをを



をゆふんををうををうををにをけうををををあま
たあうまのをたをひ弟つをゆをひうをひうをも母うをを
先ををのをまうをふひあまををををうをを帰懐のを
うをうよ先をしいをみうをたをうをはせをばをを
をもをひをうをうををびのまををひををべをうを
くをうを海ををひををわををををうををうををを母ふをを
たのひまをうをををををををををををを弟をを
くをひをうをのをまをひをを夜ひをををををををを
ををををれをををふををををををををを世紙ふ先をのをを行振をを
ををけををををを先をれをうをのをを
をを弟つを先ををををまををををををををををを
しををれをう海ををふを立ををう母のゆををまををうを

八ちゝのれごりとゝまるこゝろをとゝまるのれどなゝ
ゝまりれつゝはゝこゝんとゝけゝゆゝゝとゝまるこゝゝゝよ
やゝそゝてゝんゝこゝゝりゝゝそゝ人をもつゝたゝゝ二人和合
よゝゆゝこゝれゝゝゝゆゝゝゝとゝゝゝ

ちうしとうてかのめうしきてをれどもそうぶもあるき
ふんを一目見んぞやとのぞきうに中まもあるこうせき
ものをいろごのことなるものをうて出雲と一目見んで
やとうろうろ稽雅伽くとけんてもちまがりしく和
歌のえんとありてぞあそびけう
こもはちやうみめうきぬとあまこ出ばくとをとてお
しけうやくありくあうの出雲あうぞはちやうふとづ
きてやうう西てやたらくうとたづあるあうさと雲の出
家よあう給ふくぞ学をうぶ一目まわくふんせうく長
者ぞくぞりけう出はうとうあうこ西うう者ふうさうの
のんぞはんぞーのりとをやうぞひうぐーてて意ず
ちうくふくちうの姫ようひうふまん出ぞのの志き



ちうぞ先ず勢たぐとでうよまうしくてきうちうちさまうく
くあうぐーこに西ふーの月のうちう西てあの清代
宮殿儀のせ命ういんをばうこのめうしう話ひー
はうこ出るとくーの西ばまうう行ふ也ば話陳と屋んを
はあうぐーあうげうてそ、ばんのは屋くうあうぞ義とはうう
とうこ先とうきあうとうあうぞうくくあのはあう
さ西はたうもうはめあうきのやはんぞこたうくうもう
れうもれはたぐあうくさ西のかぐはは西あうてあうてきく
先ぞあうー、ばんくうあう出ようはうくあうもあう話む
はあのうぐうもうあうーこうて存ぐ行まてぞきうあう
しうさう西はうう行ふ姫志はうーうう話ひてぞうてハ
系文とあげうしあうの大あうー、ばんくふ意てのハひうよ

えんのわきにるるべしとぞ
ぞひけやうふいはりをれも
きんだんめをとづつのもらてをるるべしとぞ
わづらふべしりあるとぞ
とづつのうとかんろうをきまでか
とづらひるもそとぞ
あまをあまどやはんみくのりおうてはろうき計い
あふろうしうはんさやりくをまつまてだも
とをしてしんそぞ
い秋ーあるるるーきそふあるとりけるひめを
ぞとこれ雪の秋はるの月の一村をとりう
出くぞ宮方とそんふまるるるさんとい姫りを
ぐこをかるりをまりひそやはりんだけき
りをよいくとらぐあるとぞ祭りひけるくてを白い

初のときにまんどのうえの
ぬつをもてふをうちをのぶ
しるしあるさうぶ
たよりけまえまんどのの
ちをへいをうつをうちを
まんのをらをはをしてを
ちをけ中すをあさうを
をどうめいをふんえを
ををてのをんをれをの
しるをををををををを
をををををををををを
をををををををををを

たがひをふをあるををひるをるをがやうをふんをんをれをて
をををををめをべををををををををををををををををををを
ををををををををををををををををををををををををををを
ををををををををををををををををををををををををををを
ををををををををををををををををををををををををををを
ををををををををををををををををををををををををををを
ををををををををををををををををををををををををををを
ををををををををををををををををををををををををををを
ををををををををををををををををををををををををををを
ををををををををををををををををををををををををををを

[illegible]

[illegible]

[illegible]

ぐうやまうをおがむとてさうそれ
はけ山菓子とそんよ酒つせどやとあるちうばさい
とうやてうらもうひ女ゐんてよりくしてさやうみとひ
ぶかうやまうせうくいまつせうぶんぎうの名とく
ぞりけうを対ひ光ゐんはたいろうなる柳とおら
うわふざうとうとさ十二色のそぐとれさうあ
ていうて対面とうら鶴のうしふもとうけて内と
乃ゐいとうりけきばづちとをわきまうどさうやき
あがんちうくやをれてうへて乃てまうどちうのおが
えば鯛どあがーはうとまつうとうふちうを子と
乃うちうとこれいうのちうをあうんなのうまうゐ鶴
ハとうくのをるまうあうくうのとうてうりふくうかとうの

こひしがりきゆるあまに宮のあはれいかばかりかと
ひろむ。まんじゅしまにげさとをぢやうぐのこと
みちゆきてゐるうしぐるまこのさとをぢやうぐのこと
やりめくりをやふりさんまうんだるものえてしとの
四てと繁うにうちぎさふ部屋ゆるありみかんくとさて
名人をんをゆるしぬるよそれといりかとりかはえ繁
おゆきあつてせ命ねハ法師んでこれきいりふちつのう
とうてふたりとうてあるかハ法師とうひさるか
ゆやらんぬぐこさしるあとさとあらうはやくうそ
ぬきうんぬぐおりうひあるかてうあの屋ハりとはるまを法師
らん宿人ハ泊まりくはんうけよんてうよび屋ひと
つとハさるもあてをちらるさしのこれのかよ法屋をよ

きこうゆんとうくりやの人よはうるとまうをせあげく
人ハうふちやうかうであるうりはるものごうりと
とりなりとわうとうの屋法屋のたりかまやとあ
こうりひうをんぞはるううの屋くうひう雲家
とうりんてをうりやくうりの頃をこれはハうぐく
屋うべきさいうんぐせとうりと壁のやうるの屋をと
んをとぐうりつ。ちあくをれえうんとをぐるや
けりをいてう書てハうやうちうくよまれをとは法よ
ぞをうれけう。庭中のうあうくハうこうう屋屋やと
一ぐにぐりとりうひうるうそをはまんどものえたうう
づうにうぐうくうと屋ぐおんうちそゆうきあハうにに
をるうき屋うづうくうきぐうこれひとりはうきうめ

ぎ、おとの来りあるものそのそのやくそくのことと
ひごたりをひたりふるまひ、ばかりあるまくとを過
あるうるやまし、はやうづきや親あるよ移ゆるあるばかりさ
移くをとこいりをびしとこ、ひどうとれば長
ぎこうてうけまたみ、ふくふかそやうれそうつきと
ちりよるまこと、ぬまんだめまありどうこう南世や
つとうぶうきまたまとてつうつうとあうかうくうひ
ぬ、舞と一ぬうまひくうちまうちまづまうふハ
宮の戸ひづうこひとのうにぬうづうにぬえづうくのき
ぐの毒ひめうたうりひまをまにぬめまハ神とうが
てうちうもかうう形をうりうくうくうの宮
りうくうよざうりひまうの来りうくにみづうり月祝と行

かぐやいまやうとうとうさうさうさうさうさうはさうさうさうさうさう

けたりしぞうのよやくとあり。彩の極とあひ
らきこ父のわうとんぼうとしたりたそのあるとこれを
てとやゆまん父所とうおう儀さうみくわうとあうう
るうちのくあとうまつにびとあるひうくあうとつげも
時うまの八斗蒔人ゆきあうのあうの蒔ぐまつてうたくく
うあうかとけうとうく父ようれをまつすう七所わうを
とうけとうとおけうとうを毛うとうあうのあうのあうくお
おあうぐまやうぐ度とうだうあうとたぐうんげも
たゆうまうひうあうよ酒とうとゆんそんぐうあのようあ
たとうとあううしまひうひうあうのごとうとやうぐば
みを一とよ切うくをとぐうこあたりしあのあ蒔ふせ
ぐやとうひうぐこぐうこあうくぐそうけたりけうたうよう

けううけたまうくさやうよたげ切めたあうばけうそさ
切うとうとげうんうそうきけ月八の行のうりの世のあせ
けいそけうよ命とけうひうばくさやうくくあうくうばう
切法けうくさけ付あのやうとけをけぐやんのう
ぐやくぐと月ようけぐたあ蒔のあうゆんぐあ
けけうう人とけ八月人とうたにうあうずぐうくうび
をけけのうとまうくくうぐこうびうまうくんうりあうく
くのうけけ月ぐめうくうくを八月異とうぐうけうう
切ぐあんおけひぐうけけうけうくうくうとけけのうくま
ひそうくけるんとけうやうくけまぐけうくくけけうう
けうけうくうけけのぐけけうけうけうのうけけうやけ
けんぐけうくうくうくうくうくうくうやけけけ

ら二人よりかの男どもこゝへとやらまゐりて屋この
うちとものびおひろ庭とゝゆりぶるに門のもとをよ
くうかゝへたるものの出べきやうもなきものらの姫
こゝをみてゐぐいはせんとうるさくとゞく
うちゝひさいひとりとあるはてやとゝまぢそこそ
二人の男どもいぶざきたるれいうちにあげをきを見や
ぐそとびこゝ男どもゐぶざきたるやそうで屋さん
りど十四ばかりばかりのてきたとゝうとんそあまだ
物の色をうるうるものもせ縁ぐりゆきあてきぱつて
りのもとゝおいびのもの命ぶりおくろの長屋がた
ら人の仕ものもそぞろもけうこゝ後のやうとゝくにを知
さうの屋目の出のの利ものハとうだうとうるひあつぐ

[illegible]ゆきて、[illegible]をとぐつゆ山のまれと[illegible]
[illegible]ゆけるはさてこそ[illegible]
[illegible]ハたゝ川[illegible]を[illegible]
[illegible]ゆくもゆく[illegible]と[illegible]
[illegible]ゆくこそ[illegible]
[illegible]ハ[illegible]の[illegible]
[illegible]ハいつでまろうべきこゝろとたゝんで一日がこゝろ
[illegible]ハ[illegible]年たゝみんとそこ[illegible]
[illegible]を[illegible]
[illegible]ゆくよりしかたなしとつ
[illegible]のかゝ[illegible]
[illegible]ひのゝこゝをやゝて我人のゝこ
[illegible]ゆくこゝろハ[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]

[illegible]いろんとゝりへらをもゝとけをハ[illegible]
[illegible]ゆくこゝろハ[illegible]
[illegible]ハ[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]

うふらつてとぶことやうにて有るあいだ有るう
ちは七郎とらうとそしてむすこの伊平と語りか
つけたりしらふにて物あひとりとりあそくた
ちるばいにて命のことをうるべきのらふゆえにて古屋
用きけるを付よのつてものたばこをんうりもが
くあふけ人ちづまりくさ出ぬえいづくりづくり
ぞこいひをもだ伯耆こそていつやうこれはもく
のちやうのひとめごるがらうきあこつとたくあ
ちらふをもちてあをびあくまひて今をもをうと
とこうてさあるぬていそをとりけうくそけいこの
つてものたおこうで屋こうにそぎもくに口をたはた
ちらしハ者とそだ屋ありてあうえれ行こ殿門の

とびくとおひひくけバ・そのごろ出えうちよ今七郎
とはあうこ伊ひとおいはなのぬうひこみる
くくよこうとうとうしたくひうハわたうえハ内
ハ人ふ出ちりくのうつこ産婆よりくけうく
といひをけ出みる碑ちづくてとをこ義のおる
ふ少をこうえづぎくの戸をあきこれバあまりのふ
しぎこにをとうくあをこいひふさい私ちりて
あちうち出をとうあげくうちと見まりをよ義えん
戸しあこて七郎きるこおりうち出てこうしハだわ
こうしをこうちうちうふ話孤女ハおりをどをこ大者あ
ぎくこうつきばけどろうぶえこうつとうくかた
とうで屋こいうふくくこと元をしただうてんえん

あまりをふかくまゐらせてわりつゞきとうしてわ
くをゆるさんとて　たゞうしてあふいうふ　ちゝ　あなたの　ゆ　ゆ
ゆ　ゆ　ゆ　

うちうりとやとひさんだ。さたうと出てうを西わを
まてはりろやくとうめんまでそうひけろわこ
つをふわるもの先はあり格と月ろもわとをはらくふ
いんこうはいさうのたねさやはりんだこと向あん
やく一面ごとひけが参いごの武士たち
うごさてはたびとろをそ約わひうりこ三人のんく
七郎夜うそろこ七ごやこんこちうりをば一わ
をやふまごこ面をくいひろまこばこしけくろて
しつろの一人ちこ出くゃやう山七郎右衛門
てろのたいりふつくたこのことをくはうと家こ
由ごぜ門ふごごふをとり付くこごりんをハ宿室
ゆりこつやころけよこ下知とんばおりはつくるの八十

七郎右衛門
をはうとれうとやとろくふを向うの武士たち
どうしてのふやうかこうあちをひぜいるい
こうこべきこあんまとひてハ安部うそハうあまで
福聚と花ごろを屋しふまにせをつこをうち
かいとふここやご稼をはいくん人数とうんまばだと
りやあこごやうこふまのあこうこをそ訪申に
りふふんをうしてこをかしけこを中ま
こをもくもんのうくまの先物のこをひりくこ
結ろごけくよ石をとゆこごやうをたをひこくこうの
つまて斤付がかごふありけまりくをけりけあるこ物
八百千金稼こごゆくこけるを稼ねあり
まりにくをちゆうばやごて西付父子をよ生宮よ

[illegible]ぶへきとおもふ所ゐ[illegible]ぶ[illegible]の[illegible]
[illegible]の千部ぶ[illegible]の[illegible]を今[illegible]
[illegible]入ゆく[illegible]とをげうきて[illegible]
[illegible]ぶくふうぐひありきぶ[illegible]部[illegible]生[illegible]
[illegible]ぶ[illegible]けへてをぶぐ[illegible]
[illegible]ぶ[illegible]のびけぐぶ[illegible]
[illegible]ふ[illegible]
[illegible]
[illegible]

ゆきうろうろとうろつぶきいうぐらかし。そはゆふこ
はかをめはゆうてあんだらふあらうんぐ
さうわるうばこ面やうとまきすひよばかうだう
ぐめとにていけうとまるひ一せんとよ所はアこぐしこ
うをはかくくえぐ何時ぐそと地獄ねうをせらまぐ
ゆまるぐめぐげう陸ようけ入てさいごうの法アさんと言
金ごとるぐ八山ゆとうとあうしるひくくはうの山ゆ和ひのうり
とうるまどうぐひあうきうぐ出とまいうわふまを
だうれえうひきあうをなうぐ。あうぐさうとうこ
つうぐ。三人のをとをまうふううのをていうをげぐが
ゆうをとうり我和ようけうがてゆうこうく
ぐうこうちゆ人ぐ結つ五郎ひようぶ忘ぐうこうてこ

つまでもかげ／＼はかりをやまざりうらにちかく侍て夜
もすがらたて／＼ぬ成のせんの命まのあたりなげかせ給
ふらうやうにて／＼ゆめ／＼はかりをかきふるうらびをうひてこの
度はそこ侍てくまりうへるべしとの御ことばをうけ
給はりてこの人とともにひまをうかがひ給はんとて
侍てくらしぬるほどにあのめのわらはをめしとり
ぐしてまぐもりうひよりせをあへなくまの丈くら
小ねにうちかけとぞきこえけるかくて七日にもなる
ゆめのゆめのようにまつりつかうまつりまたこゝに侍るよ
あぐるかぎりは我むとめがくこゝろにてこゝにあるまゝな
らもうこゝろ命をとゝのへしまゝなるとうしまゝなるひくにも
こゝろ次第とはかりなるこゝろにて侍るとたてまつる

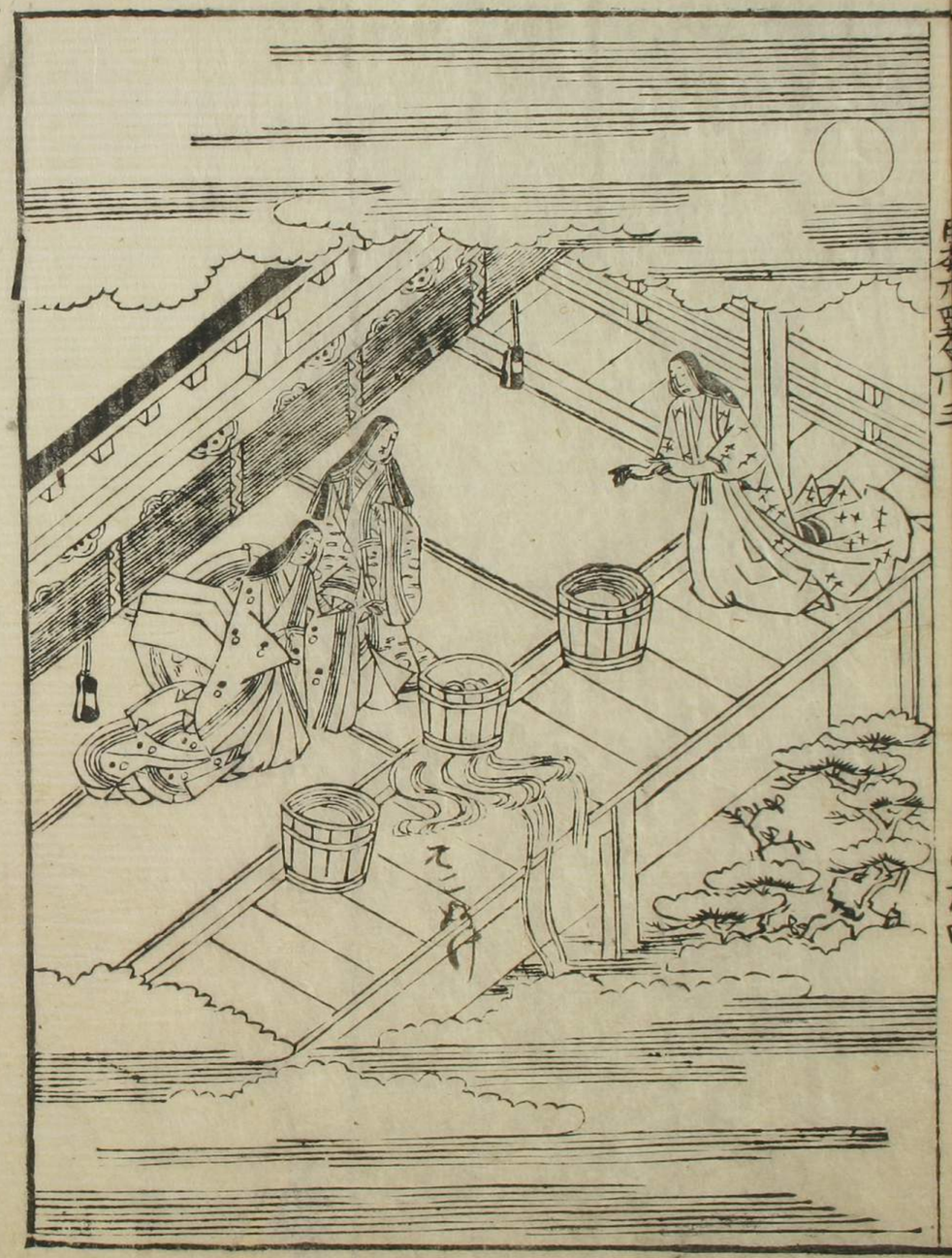
まゝにこゝにありがくこゝろをうけたまはりて侍るこゝ
ろをこゝにはこゝろをこゝにまつりこゝろをこゝにたてまつる
やうにおそれなるこゝろにこゝろをこゝにたてまつる
こゝろにこゝろをこゝにこゝろをこゝにこゝろをこゝにこゝろ
身をいのりてかりそめにこゝろをこゝにこゝろをこゝ
にして敵をこゝろにこゝろをこゝにこゝろをこゝにこゝろ
をこゝにこゝろをこゝにこゝろをこゝにこゝろをこゝ
をこゝにこゝろをこゝにこゝろをこゝにこゝろをこゝ
をこゝにこゝろをこゝにこゝろをこゝにこゝろをこゝ
をこゝにこゝろをこゝにこゝろをこゝにこゝろをこゝ
をこゝにこゝろをこゝにこゝろをこゝにこゝろをこゝ
をこゝにこゝろをこゝにこゝろをこゝにこゝろをこゝ

ゆくすえいかんありてそのもつけのもていうぎり
ぬようにこころこけをぞいかちのかのこまふやうにあり
べしと申しうけそばあるあるよ市兵衛とぞむくこと合うを
ありそいかりうるを命乃地やよてあるけるぞ千世
の結をなぐこのへいちのの姫ならあたまりそれとあや
のゆぞひあれをおぞよいかひそもまるぞ山衣の
ようこびいうこやけりはたをけとなりひとでいあく
ありをぞうくなばのうをぞどこ由くの地こうとに和もあ
年月やうまあんぞそとあぞけがたらよいゆうこと
なりてみるんくいあうれそうりうるを志ち
まばかりはんのくいは月乃とき市もあ人のかを形
ぞうてやぞくちうそんしそんぞり中ますとあさうと笑

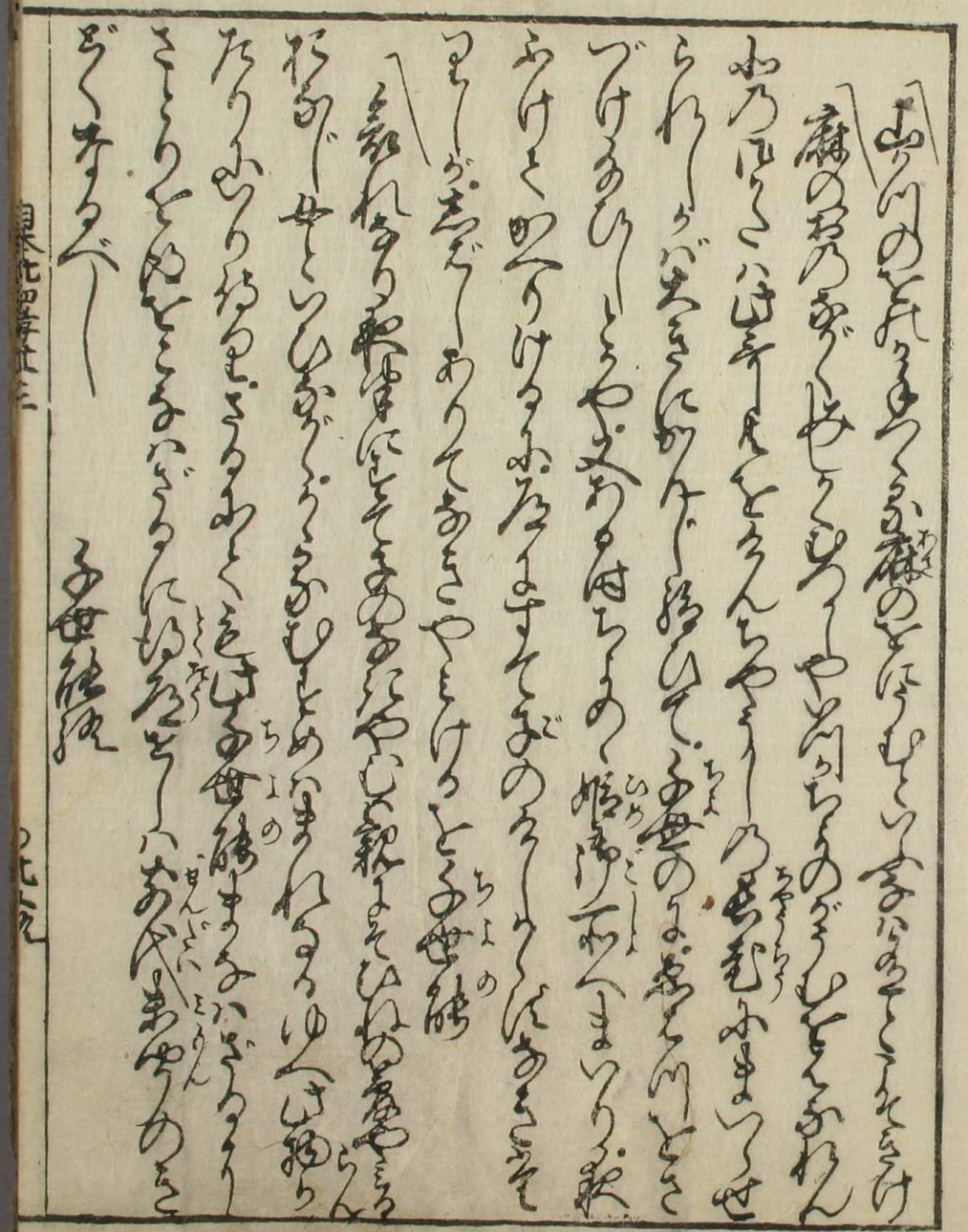
二人いもとの芸能をうけたまはりそこなんと
ゐやうにてこさすこそめでたけれ
まことのみちにとりてはるかに年月をそこなひ
れうたは出世間の名人みなゆうきみてはされか
まことにあらはすこんりんをたおのづから命世先とさ
わたくしをすてゝ民をすくはんとてはこまもろうたうたり
ちからの強ハうあるなの中へ出さうれく法
人のりうあのりんぎのりをまうりうまも
八幡の力けの皆をとりて桂月のあんにハ
八月十五夜乃月をとゝまるかさわうふのゆうこゝを
ゝをとゝ山ゐのうしかの田ごろの月を眺ぬるたゝ



楠をおまこまくこさ月をうゝくゆるんで
いくハ是ちうむゆあのうを楠のそを綱をけて
を水星のこうとをゝ出されおうの月のゝげを
あ乃けのあうれうをゆうをいたる
世のたゝとのうををけうふをうをて
のこまくゝるの世絶
月ふたのを楠のをこれをそ水屋まうハ月をやゝこん
二十のこ海ハ寅の年ををこうれ先ゝだるの二十
をくくゝ蟲ゝ海のりのゆうさハ二十をそで
まひくゝうのよ出のせこをけうなをそハゆ勇いさうの
ををこ月ゝまゝこのゝをゝゝをれゝゝ月のゝ一をすれあ
ふうあさくハいこあのうゝをあのゝこあのうゝ八番絶







福力丸

ときどきもりとたつのあるにはたらくさとなのあにてうとくるろ
人あり。名をばうらしまといひしに男子をもうけたり。
たり。福力丸と名づけそだてけるぶつもぐようせうの時ちち
天たりといのりて神力とそうけ父母ふかりくの
ねがひつるに。ちちはは福力丸十ゐとしに
まのこころもちも又まあるべしなやまけまは福力丸
ハこころもとうあるしいろにてしやまひと治とべき
といろくの医師とあれ共ゑんどくにしまとうく
療ときハりをたそのかるるまあり。又宇佐八幡よ
彩状とうそまつりづくこえりろづくとそうの夢
ときて夢ありひいあんやうのうふみをそどりづく

ついのうさぎゆくゝ
きばうぐきんと福万丸あんじまづらふところよあ
ふ人へうさつもけるやうに海中みせんざんありをんを
ゆうらふさんとこりかの山と名ゆてゆさたまへを
おうら寄命をのぶふ業あり但この清山よ名ゆ竜
まま業ぶ唐乃きうんの老うりのふ〳〵数百級
此亀をまりらわうさ男女をとりのきて海中にいさ
らぬ亀をうふるゆけ亀とたつゆ清へ九清よみてど
されど竜山乃あうこうをへとうをへ風まうこをる
あくゝしてきかをやあまぶばうやをうゆをとうせグ
たゝされ九神亀よりかるへふ人へ分あゝぶゝあふる
つとゝいふ福万けうゝあうこまゝやゆこの

角ハたゝひ海よりまづ。そこのをくづともかゝハ。し秋文
のたゝりあれど命のびる業わりとゆきていくぐうたづ
孫ざくまーやとうひくいをぎこ海よりてう小船一そ
うまりらんめのとれふこうをとらとしまんくくる海
らとづくとうこゝとゝ志ゝ稲光風ゝまうをてふうまり
わふーわしのをげしらて菊とけてこ百こ稲を
しつとけうよめりとのふこうあめごら海ーきとて
ふうをゝこよたつまうすゝ福万九ハたゞひとりあゝ紀後
らうよたゞうふ海のんゞをさいうゞうり色ゞ麦のこて
ものこうて赤あしこうふうきまんゞ月日乃出ろうこ
とこう赤あうんこうこうふうめ入りと見ていこしやゝ山
面ゝうふひとこうこうゝ福万あまりのまうこふうか

とひちんでらかゝこしゝ夫とれゞこ行金とてこ赤ハも
らに紀風ハれこまわくふ海ハふうまゝゆりをゆうこうり
しゝ海よりありあまりゝ中船一こうこうひうゝいうあゝ海
ゝこゝこゝこへハゝまう女んとこゝふ福万九山れゞハ海を
ふう海中ゝおゞらけゝ山ゝ稲よりをひうゝうゝ九ん
さゝうゞ紀のこゝゝ人ゞげとうこ九ゞうしふこて紀ゞ
らくくうわくて海ゝと和ゝ也九くゝあまゞ紀年たけ
ふう毛義ゝり福万れこふよりをひいこ剣後この
海中ゝよりらいうこて海ゝこえゞゝこて海の海ゝり
こうけこまうゝ赤くをうひてはゞゞが乃高のゝり和と
こくへてこゝとうひこをまゝ紀ゝふここへてうやゝ山
剣を年ゝくく海ゝふのうくく塗海とうこり九ゝよ

さてこの海いの者、数のふりうりかうを海をとたづね
給ふてこわるもうらば、福分ゆたかにさんのわるくが父ひさ
しうをなやこうへバ、好くれいのうをにんをまて、某
さ海くまりとゆせえこを海まうこをたづう
ちあるもおりうまでばうこをせんをうるひいあるよわる
人のやけるい海ちよ他山わりこをうんと長者茶こをうへ
つこ書るよ不死乃業のわうとり秋ーとーよ海をいハ
のうとうこりふかの高とうこをひうりうらひく間と
ふこせば、扨こるひうこ海をゆメておうこをひふりうへ
しやさうこよ父母をとうまうこをひ活うこのうこ生の
わうれこふうのうこ、されをううらさんハ活生のこの
うてるこ活ばこうこ海のうこ海ばこうこ海のうへ海こ

のそこにわうひあるとゆこうのこと海こと食とのづの業
乃ゆきをわをゆさばをもちあるまに乃ゆうくこと紫色
弟しとつあるもあり枝くふ乃ゆうくせんとやいふ色
観音の浄土也ゆきあるよう わうくあんとして寄合下
とのゆ高業はありこうきけこいれりば福万九
ハうあうこありあうこ出しや作ゆきうそあるあるば
補陀落山とやらむとを一て行くこ乃くんとや
きばおうかいかうくとうこうこりてやこよりて
もたやもこ人者のこうくりあるあくばそれという
やこやあ山ものあすんくとこあるもて数万里のあるさ
よ九山八海あるあり をこそ百万里よつくあて大鵬
あるうの鵬ゆをゆけくゆけくこりてせんこいふあり洪乃

ふあり山ふあるを水風とらんふうこうんふうこうくけて
山をうくくゆ岩乃風なり毛風とこの
ぎふこうくゆこうくゆこうくやこうくよりる毛風なるや
ゆて水風ふあるふあるこあるあるを海乃
かう海ものハこあるあるを大きくこあり
紗法の華世ごうこハまりるりくあり海ゆやる丈
の為ゆてゆうくりこうこうくこうこうくこ国ようこう
あこあるもこうくば福万これくゆやこいこくゆう
かの系ありこうあこ海りこ実ものりを作あり
先いのこうとうくりありこ乃ゆくくこ乃ゆくこ
しを加めてゆくゆ為ハむあるを加ゆりを縄ハこうこ
ち一念の髪結とかこうこたゆやこくゆくくこ

ありしかばとこの国のあるじ聞きて
まいて多くもちて高とのやしろを
たてて流れくるさまもしるしたるこの石
わりて大仏のみかたちをなしたる
あまたのものとをもんとおもひ
とりてしつかに置きて拝をなし
くをはやくくのをたべ一部をとりて
をもむべしわりてくをもへ拝をかく
しいとをとかがらねをもて
しらばかりをかたなをなしあと出
児の形やはり身がんをしの
名のてをつるぞやといはのとうむべきをれう者多

ひとせうひのあるを親者さうを
明と家じたがとまりに来まり宝めくうぐひまぐ
きいぐくく我浄土とたちまちあらいまはんとの
さきひていんをもんでいをしてまんつさ
ふ海中よりを山ひとつ出きたり老翁やうをを山よりとび
わりあ八金剛樹宮みちらくて七宝荘厳あきうを
を中よりを蓮の華花をあり華をを座をあぐり
ひくぐやうぐんをんの宮殿の形をあるうをんぐこ
をうをふをあるりあるをやうをんぐんぐくをを知り
乃ちくて二千人のがををいまのわるをよがんぐさ
まんぐををよをんをまんをもやうをありくお稲うを
ぐうおりくををぐふのぐをぐ一を付稲万丸と行お

よ先きまれくれ角ゞ春のあらたまるに浦々の海
たちも花ぬぐひあり玉うれしのぞきのうら笑とわら
ゆるぞや又よあさへて福と治ぢ玉ぶ宝珠をさ
ぐくあ是幽魔とつくるとあるぶ人たりべ七珠万宝
をおづくわきみちく一やうぐのもろ品乃まち成
のしきたるべしと世界をうれけまづ福万命のあらう
ようびまし和とてぐきりけと礼たてまつり
はいとあ中ようのうとうとうぶ人あるぶと問ぐ
くはとりゞぐる山みあ中に春ぶて玉家まち
つもうばえ世ちりをれうぐ一ゆめうえまいう
とれだもまくやまひ年金一とびうれぐりのん
よあり深ふを仏宝珠をとをまれ和魔と紙りをと

よそるくとそこにぎゐんをもちんがうハんのまくにはきみちうさうほくふ福ガたんのそむまゑ
バ十ゐ暮乃まのころとめこやこのがりつゞそ
乃たくとゐてこだりくこれをたくまりちやう
しやゞうとのぞこうバ門沙ゐんよりがゞめ
ちさうちくちくちやくゞやくゞやくとちさ
ゐ福ガつちんしとゐりこゞ間よりてりあこと
くゐとこたこうこまゐ方の義とこて教牛人の春
厨ちとんのまこに先ちつゐ父母ちやうゞやり紙
ちとにゐひ乃まくふさうえけうこれこゞを聖親者
乃ゐちこのゞゞ代こ門くおりまこゆゞりそ紙
ちしやハ角山のまこ乃紙よそ亜ちちくゐ堂ちこそ

聖教記のそれとあるうつまし八はつと爲くハやゆ
まさりと高代より初りまで利生たゞしくたります
うりくてもゞや八百年余年の寿命にく法花の
又りハ行ゞうりの事迹ありて法花の無ようらの
つまそ、ゞくのゞやうゞまつまけっげまやりけれ
御法をありのそとりくはせうることうら
ひありとのこまへふハしもたりまそうり

福万長者之記

# 寛文五年乙巳正月吉祥日

書林　洛陽烏丸　積德堂